

国際農業工学 課題レポート

① 建設コンサルタント

建設コンサルタントとは一言で表すと建築の企画を遂行する仕事のことである。主に企画が依頼され、その企画の評価・検討をして、実際に現場を調査したり計画を立て設計をする。このことはゼネコンなどの業者は行わないが、施工・管理やその後の維持・点検などはゼネコンと同様に建設コンサルタントも行う。建設コンサルタントは19世紀初頭に産業革命が起きたことをきっかけにイギリスで事業化された。日本では昭和26年日本技術士会が発足し、昭和32年技術士法が制定され建設コンサルタントの礎が築かれた。現在では、国からの事業の発注を受けたり、NPOや施工者との連携をしたり、海外事業を行い国際貢献したりと幅広いつながりを有している。また、少子高齢化や東京一極集中が問題となっている日本では、既存の施設の効率的な運営や維持管理、老朽化への対応を求められており、自然災害・環境問題・QOLの向上といった問題も考えなくてはならないため今後の社会において貢献していく可能性を持っている重要な仕事である。主な仕事の例としてダムや鉄道があげられる。

② 講義を受けて

この授業を受けてもっとも印象に残ったキーワードは「就職」です。今まで2年生だった時は、教養学部であまり専門的なことを学ばずにいたこともあり、就職はまだ先のことだと思って全く意識せずに過ごしてきましたのですが、3年生になり科目も専修で受けるようになり授業や実習のガイダンスを聞いたりして、自分がどのような方向に進むのかを考え始めた時期なので、この話を聴いて建設コンサルタントという職についての知識を得られただけでなく、色々な方面に行った先輩の話をして頂いたので大変参考になりました。建設コンサルタントの仕事の内容より、「就職」ということがより身近に感じたためこのキーワードが印象に残りました。次回はどのような話が聞けるか楽しみです。